



## 「応援団」

運動会の全体練習がスタートしました。運動会の応援も盛り上がって楽しいです。応援席で個人がそれぞれの仕方で応援するのも良いですが、ブロックで声を合わせたり、仕草を揃えたりするとさらにパワーアップします。

青春のど真ん中、全力で競技しあった運動会は、何歳になっても学生時代の楽しい思い出として心の中に刻まれているものです。私は、1971年に千代中学校に入学しました。もう50年以上前の話です。私が中学校時代に、全ての小田原市内の中学校が城山競技場に集まって、学校対抗の運動会が開かれました。自分の学校代表の選手がトラックに現れると、応援団が応援を始めます。すると、全校生徒が手拍子を合わせたり、「千代中、そーれ！」などと声を合わせたりして応援席が一つにまとまります。その時の興奮は今も憶えています。私は、3年間応援団に入って頑張りました。3年生の時に、残念ながら念願の応援団長にはなれませんでした。団長の横で一生懸命に応援をサポートしました。応援の時には校旗を持つのも大事な仕事で、旗竿の先に槍がついた校旗を誇らしげに持ったものでした。

千代中学校は、毎年、応援が一番よくて褒められました。いつしか、千代中学校の応援は城山競技場の名物となりました。特に「千代中連呼」といわれる応援は千代中学校独特のもので恰好が良かったです。中学校を卒業して、今までに3回全クラスが集まる同窓会がありました。同窓会の締めは、千代中の応援で決めています。団長だった武田君が「千代中連呼」をやります。武田君が「千代中連呼ー！」と叫ぶと同窓会場が一瞬にして50年前の、あの城山競技場にタイムスリップします。不思議なものです。白黒の思い出が一瞬にしてカラーになるのです。一番最近の同窓会は60歳の時に開かれました。この時に、武田君が欠席で、私が「千代中連呼」をやりました。60歳の同窓会で念願の応援団長ができました。最高の気分でした。

今日は全体練習で1組・2組が応援の練習をしていました。みんなが大人になったときに、今練習している応援が同窓会会場で聞けたらいいなと思いました。